

教団新報

定価 1部150円(本体137円+共214円)
 予約購読料 1年分 7共 5,350円
 紙代のみ 3,750円
 振替 00140—9—145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

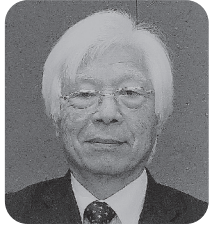
発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL http://uccj.org
 発行人 秋山 徹
 編集主筆 嶋田 恵悟
 印刷所 株式会社きかんし

東日本大震災から10年を迎えて

「あのことがあって今がある」

教団総会議長、越谷教会牧師

石橋 秀雄



2011年3月14日、
石巻に入った。凄まじい
津波に破壊され、ヘドロ
で埋まった地に立ち、衝
撃を受け言葉が失ってト
ボトボト歩く心に「わたし
たちの助けは、天地を造
られた主の御名にある」
(詩編124・8)との

御言葉が示された。この
御言葉を掲げて、直ちに
「東日本大震災」の議長
メッセージを書き、さら
に、この御言葉を掲げて
東日本大震災災害救援基
本方針を定めて活動して
来た。

大震災発生後の最初の
イースターを迎えること
になるが、その前の日の
23日のことは忘れられな
い。23日は「土曜日のキ
リスト」だ。死んで墓に
納められた主イエスを見

つめる日だ。この日の朝
日新聞の天声人語に被災
者をもつてと島田陽子氏
の詩「滝」が掲載されて
いた。

「滝は滝になりたくて
なったのではない／／
まっさかさまに／落ちて
落ちて落ちて／たきつ

分「この日のボランティア
ア全員が荒浜の海岸で輪
になって祈り続けてき
た。わたしもボランティ
アで汗を流し、この祈り
の輪に加わった。

この地域で残っている
家屋はない。全て流され
て土台だけになってい
る。わたしはこの「絶望
の土台」の場にしばしば
行き、祈った。この奈落
の底に「エリ、エリ、レ
マ、サバクタニ」(マタ
イ27・46)と叫んで十字

「新しい人間関係」に生
かされてきた。「思いが
けない平安」を知り、経
験してきた被災者の「あ
のことがあって今があ
る」の言葉を聞いて感動
した。

1万人を超えるボラン
ティアの青年が、被災者
との出会いの中で、悲惨
を知る中で、自分の生き
方を知り、自分の生き方
を変えている姿に日本の
未来に希望を持つことが
出来た。海外の教会から
多額の献金と祈りが捧げ
られた。

14年に日本基督教団初
の「東日本大震災国際会
議」を開催し、さらに17
年に「エネルギー持続可
能社会の実現を目指し
て」を主題として「国際
青年会議が開催された。
このつながりをどのよ
うに深め、「東北教区放
射能問題支援対策室い
ずみ」の働きをいかに支
援して行くか、教団の大
きな課題だ。

お知らせ
「教団新報」今号を
4944・45合併号
とし、次号は3月27日
に発行します。
総幹事 秋山 徹

分かち合い続けてきた10年

東北教区総会議長、福島教会牧師

保科 隆



東日本大震災と東京電
力福島第一原子力発電所
の事故から10年を迎えま
す。被災した時は仙台に
おり今は福島におりま
す。この10年間はずっと
東北教区内の教会におり
ました。震災で被災した
地域の東北教区で10年を
歩んだものとして思いつ
くことを記します。

一つは福島原発事故
のことです。東北の受け
た四重苦という言葉が使
われました。地震、津波、

風評被害、原発事故です。
しかし、自然の災害とし
ての地震や津波と人災で
ある原発事故を並べて考
えることは出来ません。
東北教区は、2012年
と2013年どちらも5
月に高橋和人議長名で2
度にわたり「原子力発
電所の廃止を求める声
明」を出しています。そ
の思いは東北教区に継続
されていると受け止めて
います。原発には反対で
す。宮城県における女川
原発二号機の再稼働の動
きや、福島事故を起こ
した原発の廃炉作業の中
で原子炉建屋の中に予想
もしない高レベルの放射
能が付着している物が最

近になって見つかりまし
た。そのことを一つ考え
ても廃炉作業は汚染水の
処理も含めて安心できる
状況ではありません。「安
心・安全」未来の明るい
エネルギーといわれ、日
本各地に続々と造られた
原発でしたが工程表のよ
うに進まない廃炉作業を
見ると、「安心・安全」
とはほど遠い現実がある
ことを知ります。

東北教区には福島県浜
通りにある二つの伝道所
が事故後に帰還困難区域
に国から指定されまし
た。そのためすべての活
動ができなくなりまし
た。小高伝道所の礼拝は
最近になって再開されて

いますが浪江伝道所につ
いては礼拝再開のめどは
10年過ぎた今も立ってお
りません。
もう一つのこと震災
後に生まれた教区の教会
救援復興委員会の働きで
す。地震により建物に被
害を受けた教会に対する
支援の働きが、教団の東
日本大震災救援対策本部
との協力によってなされ
ました。支援申請額の半
額支援、半額貸付けの制
度にはいろいろな意見が
ありましたが現在も教区
内に借入金が残額を返済
している教会があること
を覚えていただきたいと
思います。

さらに被災者支援セン
ターと放射能問題支援対
策室「いずみ」の働きも
なされました。この働き
は日本国内のみならず海
外からの支援と祈りに
よって続けられました。
津波被災地支援を中心と
した被災者支援センター
はすでにその活動を終了
していますが、その活動
にボランティアとして参
加された方は1万近く
です。海外からのボラン
ティアもおられました。
教団派遣の専従者として
またスタッフとしてかか
わってくださった方々も
おられます。その働きに
感謝です。

「いずみ」の働きは
現在も継続中です。

2013年に活動を始め
るときにはアメリカ合同
メソジスト教会の災害支
援の組織(アムコール)
やCGMBからの財政支
援を受けました。また北
日本3教区(北海・奥羽・
東北)で夏と春の年2回
の福島の子どものための親
子保養プログラムを14回
まで継続しました。3教
区間の協力があってなさ
れたプログラムです。北
海教区からは「いずみ」
を立ち上げる時のスタッ
フの協力も受けました。
コヘレトの言葉11章2
節に「七人と、八人とす
ら、分かち合っておけ
国にどのような災いが起
こるか 分かたもので
はない」とあります。震
災から10年が過ぎ、また
コロナ禍の中にある今、
このコヘレトの言葉をか
みしめたいものです。

東日本大震災関連記念行事日程

《奥羽教区》

東日本大震災 10年を覚えての礼拝
 礼拝動画の配信を行います
 ◎動画配信日 3月7日(日)
 ◎説教 飯田敏勝奥羽教区総会議長
 大曲教会のYouTubeチャンネル内に
 動画をアップします。7日以降は自由に
 アクセスできますので、任意の日時にご
 視聴ください。
 リンクアドレスについては後日改めて
 ご案内します。

《東北教区》

東日本大震災 10年記念礼拝
 オンライン礼拝を配信します
 ◎日時 3月11日(木)午後2時30分～
 ◎説教 片岡蔄也教師(若松栄町教会)
 ◎パブリックビューイング会場
 福島県 勿来教会、安積教会
 福島教会、若松栄町教会
 宮城県 東北教区センター
 仙台東一番丁教会
 山形県 山形六日町教会

第11回

常議員会

第 41 総会期



第41総会期第11回常議員会が2月8日、オンライン会議で、常議員30名中29名が出席して行われた。

総幹事報告において、秋山徹総幹事は、コロナ禍への対応について報告する中で、「延期した第42回教団総会は、21年10月26～28日となったが、状況によっては検討の余地も残している。教区選出議員は、7月開催予定

「日本基督教団の教師論」を可決

の常議員会で承認する」と述べた。また、「教団のメディア戦略として、専門家に相談しつつ、カナダ合同教会からの伝道指定献金を用いて、スタジオ設置構想の検討を開始したことを報告した。教団三局については、機構改定、コロナ以降の体制に鑑み、適正な職員の配置数を図って行きたい」と述べた。

質疑応答の中で、教団総会を開催しなかった場合にホテルに払う1千万円前後の違約金について問いがあった。道家紀一総務幹事は、これまでは違約金を決めることはなかったが、コロナ禍で、総会を1年後に延期する際、違約金について文書化したことを説明した。

熊本・大分地震被災教会会堂等再建支援委員会報告承認された「教師論」の報告では、服部能幸監査委員が、委員会会計が適切に処理されていることを報告した。日下部遣志九州教区議長が、全ての支援が終了したことを受けて感謝を述べ、教区から教団の救援基金に1千万円感謝献金する旨を告げた。

伝道対策検討委員会報告と伝道推進室報告では、教団が『信徒の友』を買い取り、小規模教会への支援として配布すること、また、出版局の書籍を教師検定試験受験者に配布すること、そのための献金を募ることが検討されているとの報告があった。

「日本基督教団の教師論承認に関する件では、教団養成制度検討委員会がまとめ、前常議員会で報告承認された「教師論」を「確定し、公けにする」ことが提案された。

「何故、コロナ禍の中で決めるのか。これを決めて何に使うのか」との問いがあり、菅原力教師養成制度検討委員長は、「2011年からの繋がりの中で出て来たことであり、教団が神学校と教師養成について話し合う際、教師論を言葉として提示することが重要」と説明した。「信仰告白・教憲の解釈が入り込む故、教団総会で扱うべき」、「教師論が常議員会に出されたのは2019年度であり、この件についての論議は充分ではない」との意見がある

一方で、「解釈ではなく、教憲が述べていることを整理して提示した。総会から委ねられた委員会が報告をしつつ進めている」との意見があった。継続審議の動議が出されたが、動議は28名中賛成3名で否決、議案を24名の賛成で可決した。

出版局

検討チームの報告を聞き、協議

常議員会後半のセッション冒頭、出版局に関する協議会が開催された。これは、出版局の現状に関し、経営改善検討チームの報告をもとに協議をするものであった。

まず、検討チームの報告が加藤真澄氏からされた。加藤氏は自身について「中小企業再生支援協議会」という国の組織において、これまで50社以上の中小企業の事業再生計画の立案に関わった経験がある」と紹介した。

用意された報告書の内容を見直したり別のスケジュール案を考えておく必要があるのではないかと、意見が出された。また、今後、教団機構改定議案の報告承認された「教師論」を「確定し、公けにする」ことが提案された。

「何故、コロナ禍の中で決めるのか。これを決めて何に使うのか」との問いがあり、菅原力教師養成制度検討委員長は、「2011年からの繋がりの中で出て来たことであり、教団が神学校と教師養成について話し合う際、教師論を言葉として提示することが重要」と説明した。「信仰告白・教憲の解釈が入り込む故、教団総会で扱うべき」、「教師論が常議員会に出されたのは2019年度であり、この件についての論議は充分ではない」との意見がある

一方で、「解釈ではなく、教憲が述べていることを整理して提示した。総会から委ねられた委員会が報告をしつつ進めている」との意見があった。継続審議の動議が出されたが、動議は28名中賛成3名で否決、議案を24名の賛成で可決した。

伝道対策検討委員会

機構改定スケジュールについて協議

1月22日、オンラインで、第9回教団伝道対策検討委員会を開催した。

前回記録承認後、教団伝道推進基本方針展開検討小委員会より、『教団機構改定に関する検討資料』についてのQ&Aについて、現段階では特

において、オンラインで、教団機構改定についての学習会や協議会がもたれたことが報告され、これを承認した。

また、第11回常議員会において各小委員会の報告をするほか、今年の4～6月に開催される各教区総会において配付する、教団機構改定に関する資料を確定することとした。

続いて、伝道推進室委員より、教団における伝道推進の具体的な展開として、教団が出版局の本や『信徒の友』を買い取り、小規模教会や教師検定試験受験者への支援

として配付することについて協議したとの報告がなされ、この件については、今後、本検討委員会において検討することとした。

協議においては、教団機構改定に関する今後のスケジュールについて、すでに教区総会の議事を決めている教区もあり、教団機構改定については実質的な協議や検討がなされない状況であることが

ら、今年10月に開催予定の教団総会で機構改定について審議することは難しいのではないかと、意見が出された。また、今後、教団機構改定議案の内容を見直したり別のスケジュール案を考えておく必要があるのではないかと、意見が出された。また、今後、教団機構改定議案の報告承認された「教師論」を「確定し、公けにする」ことが提案された。

「何故、コロナ禍の中で決めるのか。これを決めて何に使うのか」との問いがあり、菅原力教師養成制度検討委員長は、「2011年からの繋がりの中で出て来たことであり、教団が神学校と教師養成について話し合う際、教師論を言葉として提示することが重要」と説明した。「信仰告白・教憲の解釈が入り込む故、教団総会で扱うべき」、「教師論が常議員会に出されたのは2019年度であり、この件についての論議は充分ではない」との意見がある

一方で、「解釈ではなく、教憲が述べていることを整理して提示した。総会から委ねられた委員会が報告をしつつ進めている」との意見があった。継続審議の動議が出されたが、動議は28名中賛成3名で否決、議案を24名の賛成で可決した。

最後に、石橋秀雄議長が加藤氏に謝意を表し、継続的な助言の必要性を請うた。また、常議員会として報告を重く受け止める、第三者協議会と経営改善検討チームと協働しつつ議論を重ねていきたいとコメントした。

推進を祈る日」記事掲載

奈川・東中国の各教区に

区総会において配付す

検定試験受験者への支援

を「確定し、公けにする」ことが提案された。

「何故、コロナ禍の中で決めるのか。これを決めて何に使うのか」との問いがあり、菅原力教師養成制度検討委員長は、「2011年からの繋がりの中で出て来たことであり、教団が神学校と教師養成について話し合う際、教師論を言葉として提示することが重要」と説明した。「信仰告白・教憲の解釈が入り込む故、教団総会で扱うべき」、「教師論が常議員会に出されたのは2019年度であり、この件についての論議は充分ではない」との意見がある

一方で、「解釈ではなく、教憲が述べていることを整理して提示した。総会から委ねられた委員会が報告をしつつ進めている」との意見があった。継続審議の動議が出されたが、動議は28名中賛成3名で否決、議案を24名の賛成で可決した。

最後に、石橋秀雄議長が加藤氏に謝意を表し、継続的な助言の必要性を請うた。また、常議員会として報告を重く受け止める、第三者協議会と経営改善検討チームと協働しつつ議論を重ねていきたいとコメントした。

最後に、石橋秀雄議長が加藤氏に謝意を表し、継続的な助言の必要性を請うた。また、常議員会として報告を重く受け止める、第三者協議会と経営改善検討チームと協働しつつ議論を重ねていきたいとコメントした。

最後に、石橋秀雄議長が加藤氏に謝意を表し、継続的な助言の必要性を請うた。また、常議員会として報告を重く受け止める、第三者協議会と経営改善検討チームと協働しつつ議論を重ねていきたいとコメントした。

最後に、石橋秀雄議長が加藤氏に謝意を表し、継続的な助言の必要性を請うた。また、常議員会として報告を重く受け止める、第三者協議会と経営改善検討チームと協働しつつ議論を重ねていきたいとコメントした。

「2021日本基督教団教会・伝道所一覧」発行

各教会・伝道所には教区事務所から送付します。個人でご入り用の方は教団事務局までお申し込みください。送料込み500円。数に限りがございます。

TEL:03-3202-0541 FAX:03-3207-3918

E-mail:somu-b@uccj.org

▼予算決算委員会▲

「救援対策引当金」を「救援対策基金」に

第7回予算決算委員会
は、1月29日に一部リ
モート会議にて開催し
た。

秋山徹総幹事より各教
区で教師、信徒が新型コ
ロナウイルスに罹患し、
礼拝自粛も報告されてい
るため、教団として1月
15日付諸教区宛に「教会・
伝道所で新型コロナウイルス感
染者が発生した場合につ
いて」文書を送付し注
意喚起した旨報告があ
った。

出来る限り、ズームによ
るオンライン会議を推奨
している。また会議出
席者にズーム日当（一回
1000円）を拠出した
等の報告を受けた。

2020年度第三次補
正予算案に関する件と
2020年度半期決算報
告に関する件を承認した
後、救援対策引当金の取
り扱いに関する件を検
討した。日本基督教団は
「救援対策基金」を規則
に基づいて保持し、その
総額は「救援対策引当預
金」として経常会計の特
定資産の部に表示されて
いる。さらに経常会計に
は固定負債の部に「救援
対策引当金」が計上され
ている。しかしこのよう
な会計表現は、実際の預
金高と引当金との間に
不一致を発生させてしま
う結果となっていた。経
常会計内にある「救援対
策引当預金」は、本来
「特別会計」の一つとし
て「救援対策基金」を起
こし、そちらに移転、表
記するほうが合理的で
あったに聞けず、そ
れが採用されなかったた
めである。そこで協議の
結果、2021年度中に
経常会計に置かれている
「救援対策引当預金」（約
6000万円）を「救援
対策基金」という名称で
新規に設置する特別会計
に移動させることを承認
した。

▼部落解放センター運営委員会▲

置かれた意味を問い続けて

また、道家紀一総務
幹事並びに大三島義孝
財務幹事より事業活動
等に関して報告があっ
た。事務局職員に対して
は在宅勤務や時差出勤を
推奨し、更に「テレワー
ク規定」を作成、会議も

第7回運営委員会を1
月28日、ズームを利用し
開催した。運営委員15名
の出席と10名の陪席。
各部門の活動報告は
「コロナ禍」での健闘を
伺えるものだった。青年
ゼミナールはオンライン

での実行委員会を継続
し、ゼミ当日に向けて事
前学習会も予定してい
る。英字ニュースレター
と「良き日のために」編
集委員会は、活動委員会
が主体的に関わり、発行
ペースを維持する。また、

「部落解放奨学金」の運
用が始まり、給付申請者
2名に面接を経て支給を
行った。協議事項では、次期セ
ンター主事について検討
した。部落解放センター
が社会との約束において

設立されてから今日ま
で、主事はその柱となり、
縁の下力持ちとして責
任を担ってきた。近年重
要性が増してきたエキ
ュメンカルな協働におい
ても、常に動く立場にあ
る。重要性を改めて確認

（中村公一報）

▼社会委員会▲

行政支援が行き届かない人々を支援

第7回社会委員会は、
1月26日にズームによる
オンライン会議として開
催した。森下耕委員長に
よる聖書朗読と開会祈禱
の後、前回議事録を承認。
担当委員、担当幹事、
秋山徹総幹事からの諸報
告の中で、特に災害募金
について、「2018年
諸災害救援対策基金」と
「台風19号豪雨緊急救援
募金」を2021年3月
末で閉じて双方の繰越金

を「救援対策基金」に繰
り入れることが報告され
た。

協議では、クリスマス
献金をもとに実施してい
る社会福祉施設への援助
について取扱い、各教区
より推薦された4施設に
ついて提出された申請書
類を審査し、それぞれの
運営状況や支援の必要性
などに鑑み、各10万円を
送ることを可決した。

また、秋山総幹事から
提案で、コロナ禍の中
で社会委員会として教会
の活動は単発に終わらせ
ず継続性のある働きとし
たいことから、次期への
申し送り事項に加えるこ
とも確認した。

次回委員会は、上記活
動の支援決定、教団機構
改定、全国社会委員長会
議開催などについて協議
するため、3月18日に開
催する。

（高橋真人報）

▼伝道委員会▲

開拓伝道援助金、申請額の6割を援助

第7回委員会は、感染
症拡大防止対応として、
2月1日、オンライン会
議の形式で行った。冒頭、
秋山徹総幹事と委員にて
教団・常議会の動静に
ついて意見交換した。そ
の後、おもに開拓伝道援
助金および建築資金貸出
の審査を行った。

開拓伝道援助金につい
ては次の5教会・伝道所
の申請を受け受理・審査した。
西東京教区・八王子ベテ
ル伝道所（千原創教師）、
関東教区・菟浦教会（東
海林昭雄教師）、東中国
教区・久世教会（宮本裕
子教師）、中部教区・中
川ぶどうの木伝道所（尹
成奎教師）、沖縄教区・
石垣農村伝道所（川崎正

志教師）。審査の結果、
開拓伝道援助資金の現状
を鑑み、一律、申請額の
6割援助を行うこととし
た。

なお、近年、申請額に
対して満額支援ができて
いない。同資金の原資は
「教会創立記念日献金」
と「開拓伝道援助献金」
となるが、改めて同献金
の趣旨を全教団的に訴え
る必要性を確認した。
建築資金貸出金につい
ては、次の2教会・伝道
所の申請を受け受理・審査
した。東海教区・飯田入舟
教会（丸大勝教師）、沖
縄教区・石垣農村伝道所
（川崎正志教師）。小規模
教会・伝道所の宣教の志
を委員会としても受け止

また、同貸出金規則に基
づき、当該教区の返済責
任を確認することを条件
とした。

（村上恵理也報）

教区議長コラム

◆九州教区◆

日下部 達志

当たり前
になった1
年でした。

支え合う中で

会中は奄美地区を支える物産
バザーや教師互助のための古
本屋が盛況です。沖縄宣教連
帯献金などの募金箱も置かれ
ています。休憩時間にはホーム
レス支援のための1杯100円
のコーヒード一息つきます。

区という一つの体を形作って
いきたいと願っています。
また近年、自然災害が頻発
しています。2016年の熊
本・大分地震では全国諸教会
より多くの支援を受け、全て
の被災教会が再建或いは補修

（九州教区議長）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

（後藤 慧報）

教師研修会－教師養成制度検討委員会主催－

- ◎主題 『贖罪論』
- ◎講師 芳賀 力（東京神学大学学長）
- ◎日時 2021年3月2日（火）14時～16時
- ◎方法 オンライン（zoom）※事前登録制度
- ◎参加対象 日本基督教団教師
- ◎参加費 無料
- ◎申込方法 右のQRコードより、「申し込み登録サイト」に入り、必要事項を記入の上、送信してください。URLは、教団公式HPにも掲載しています。
- ◎申込締切 2月28日（日）



2・11メッセージ

「慰安婦問題」で韓国の裁判所が賠償責任を日本に問うていることへの対応について日韓関係への影響が懸念されている。そのことに思いを巡らせていた日々、「めぐみの高き嶺」という讃美歌を思い出した(聖歌589番)。「ひかりときよと平和にみちたるめぐみのたかきね われにふましめよ」のリフレインフレーズが心を打つ。

思い出すのは実話をもとにしたノンフィクション映画のシーンだ。日帝支配時代の韓国で、韓国の民衆が神社参拝を強要されていた頃、朱基徹(チュキツチョル)牧師はそれを拒否した。さまざまの抑圧と迫害の中で、決して自らの意志を曲げない牧師は拷問による苦痛の中で獄死する。燃えさかる火の中を歩かされる痛々しい拷問は見ていられないほどの辛い、酷いシーンで深く印象に残っている。この映画のタイトルが「恵みの高き嶺」で、私は90年代にこの映画を観た。信教の自由のことを思う度にこの映画のことを思い出す。

2012年に訪韓した折、独立記念館の二コナーで、提岩里(チエムリ)の教会が焼き打ちされた事件について大きなスペースがさかれ、事件についての詳細が示されていた。時は三・独立運動当時であり、先の映画とは状況も出来事の性質も違うが、何故か映画の記憶とそれが重なっていく。それは神社参拝強要という共通項のゆえである。なにゆえに、軍国日本が韓国民衆に対し神社参拝を強要していたのか、理由はいろいろ考えられるだろうが、実効支配を強化するための施策として有効だと考えられていたのだろう。しかしここで重要なことは宗教が支配者の道具として利用されたということだ。日本と韓国の問題だけではなく、世界の全ての歴史のいたるところで、宗教は支配者の道具として利用されてきた。キリスト教はそれの最たるものかもしれない。自戒を込めて私たちはこの問題を考えなければならない。

この日本では私たちキリスト者は少数者であるかもしれないが、宗教にはそういう面があることを心にとめなければならない。宗教が強制力を持つとき、宗教は支配者の論理で人を縛りつけるものになる。信教の自由は日本国憲法の中で基本的人権の一つ、自由権として示されている。人権が擁護されなければならない前提に立った上で、何事も強要されない自由な人格と人格の出会ひの中でこそ、信仰は培われていくものなのである。そこで大いなる者(神)と人との出会ひは、人が他者に強いて意図的になすものではなく、神で自身が導くに委ねられるものなのである。

誰に強要されるはずもなく、恵みの高き嶺を求めて踏みゆく一歩は自らの歩みにおいてである。そこにこそ信教の自由の上に立つキリスト者の自由と平和への道のりがあるのである。

2021年2月11日

第41総会期日本基督教団

社会委員長 森下 耕

事務局報

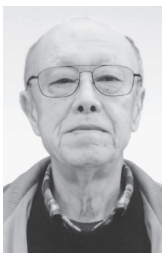
知花眞康(隠退教師)



20年12月12日逝去、80歳。沖縄県生まれ。67年東京神学大学院卒業。同年より真和志、首里、与勝教会を牧会し、11年隠退。遺族は妻・知花常代さん。



20年12月27日逝去、87歳。宮城県生まれ。96年東北学院大学卒業。同年より石巻山崎町、涌谷教会を牧会し、14年隠退。遺族は妻・平井順子さん、中村 澪(隠退教師)



21年1月13日逝去、93歳。広島県生まれ。64年農村伝道神学校卒業。同年より西部教会を牧会し、12年隠退。遺族は息・中村哲信さん。

永井義之(無任所教師)



21年1月3日逝去、74歳。長野県生まれ。63年同志社大学大学院卒業。同年より城南、平安、熊本草葉町、四條畷、大阪九條、交野教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・矢崎永久子さん。

歳。福島県生まれ。76年

東京神学大学院卒業。77年より仙台長町、陸前古川教会を牧会し、東北学院大学に務める。遺族は妻・永井貞子さん。

河野信広(無任所教師)

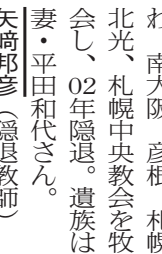


21年1月14日逝去、62歳。山梨県生まれ。85年東京神学大学院卒業。86年より三瓶、札幌、七戸、榛原教会を牧会。遺族は母・河野富士子さん。

平田 久(隠退教師)



21年1月18日逝去、91歳。広島県生まれ。55年同志社大学大学院卒業。同年より新潟、巣鴨ときわ、南大阪、彦根、札幌北光、札幌中央教会を牧会し、02年隠退。遺族は妻・平田和代さん。

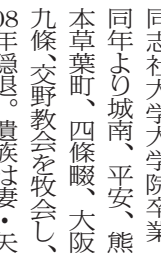


矢崎邦彦(隠退教師)



21年1月28日逝去、83歳。長野県生まれ。63年同志社大学大学院卒業。同年より城南、平安、熊本草葉町、四條畷、大阪九條、交野教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・矢崎永久子さん。

永井義之(無任所教師)



21年1月3日逝去、74歳。長野県生まれ。63年同志社大学大学院卒業。同年より城南、平安、熊本草葉町、四條畷、大阪九條、交野教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・矢崎永久子さん。

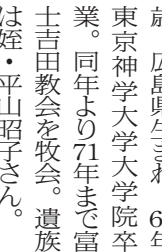
種谷俊一(隠退教師)



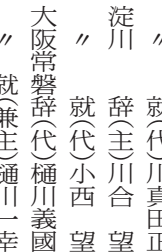
21年1月20日逝去、93歳。兵庫県生まれ。50年同志社大学大学院卒業。52年より宇和島丸之内、延岡城山、尼崎、八頭教会を牧会し、98年隠退。遺族は息・種谷啓太さん、太組久二子(無任所教師)



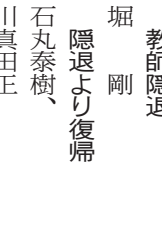
平田 久(隠退教師)



21年1月29日逝去、94歳。広島県生まれ。69年東京神学大学院卒業。同年より71年まで富士吉田教会を牧会。遺族は姪・平山昭子さん。

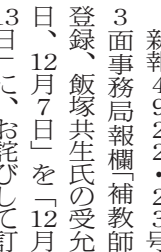


矢崎邦彦(隠退教師)



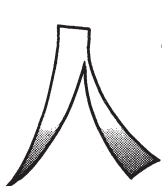
21年1月28日逝去、83歳。長野県生まれ。63年同志社大学大学院卒業。同年より城南、平安、熊本草葉町、四條畷、大阪九條、交野教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・矢崎永久子さん。

永井義之(無任所教師)



21年1月3日逝去、74歳。長野県生まれ。63年同志社大学大学院卒業。同年より城南、平安、熊本草葉町、四條畷、大阪九條、交野教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・矢崎永久子さん。

人ととき



荒井忠三郎さん

キリストに生きる



1926年生まれ。聖和教会員。

戦争が終わって「人生やり直し」との思いから夜学に通っていた荒井忠三郎さんは、年若いクラスメイトから渡された新約聖書を開いて読むようになった。誘われて伝道集會に出席し、キリストを信じる決心へと導かれた。

やがて、伝道チラシを受け取り、聖和教会の礼拝に出席するようになる。昭和29年のイースター、臼井義麿牧師より受洗した。

しばらくして長老に選ばれた荒井さんの自宅兼職場に、臼井牧師が訪ねて来た。工場

の広い敷地と周囲の様子を見て言った。「君、ここは伝道に最適だよ。是非、開拓伝道をやり給え」。戸惑いつつも、

開拓伝道は10数年続いたが、工場の倒産により閉じられることとなった。その間、受洗者62名、転入者10名が与えられた。

伝道所のメンバーと共に聖和教会に復帰した荒井さんは、自宅を開放して聖書を読み祈る会を持つようになった。約20年の間に、7名の受洗者

促されるままに伝道計画書を作成。すくさま臨時総会が開かれて、伝道所開設となった。工場倉庫での礼拝。労苦はあったが、伝道の勢いは凄まじいものだった。教会学校も開かれた。ひたすらに福音を宣べ伝えた。

教会は創立69周年を迎えたが、荒井さんは牧師を支え続け、兄弟姉妹を励ましてきた。80歳で長老を退いて、現在94歳。両手に一本ずつ杖をもって礼拝に集う荒井さんを支え続けているのは、「我は復活なり、生命なり、我を信ずる者は死ぬとも生きん」(ヨハネ11:25)との御言葉である。

そして、その礼拝者としての真摯な姿によって、キリストを証しし、今も兄弟姉妹を励ましている。

毎年行われる「信教の自由を守る2・11札幌集會」の責任を負っているが、今年はオンライン併用で開催することとした。主会場を設定するが、講師にはオンラインで話していただき、それは主会場以外でも直接オンライン視聴できるようにした。

北海道内各地で行われていた2・11集會のいくつかはやはりオンライン開催となった。それによって、参加する側も、複数の集會の中からどれに参加するかを選べる状況が生じている。

コロナ禍で、オンラインの利

オンラインの可能性

用が一気に普及した。企業でもリモートワークが日常化している。教団の多くの会合もオンラインで行われるようになった。オンラインの会合にはもちろん限界もあるが、場所の制約から解放されることの影響は大きい。2・11の場合のように「各地域ごとに集會を行う」ことの意味が薄れてしまったのだ。「全国集會」はおろか世界規模の

(教団総会副議長 久世そらち)